令和4年度天皇誕生日・La Prensa 寄稿
「友好国として長い歴史を持つ日本とパナマ」

福島駐パナマ大使

2月23日、日本の徳仁天皇陛下は62歳になられる。我が国は、日本国統合の象徴たる天皇陛下の誕生日をナショナルデーとして国家と国民の繁栄を祝っている。

日本とパナマは伝統的な友好関係を有し、その歴史は日本がパナマの独立を承認し両国が国交を結んだ1904年にさかのぼる。両国は民主主義、人権、法の支配などの基本的価値を共有するかけがえのない国際パートナーとして、118年に及ぶ長年の友好関係を築いている。また、本年当館と在京パナマ大使館は、日本人が節目として重んじる開設60周年を迎える。

世界最多のパナマ船籍の商船隊保有国でもある日本は、発着地別の運河通航貨物量でトップ3に入る主要利用国として海運・通商上、これまで多大な恩恵を受けてきた。実際、パナマ運河経由の日本への天然資源の輸出は、低炭素戦略に舵を切った日本のエネルギー安全保障をも力強く支えている。他方で、パナマ運河にとっても日本の海運会社や荷主たる日系企業は重要な顧客でもある。

日本はパナマの持続的な経済成長、格差是正を目的にインフラ、保健、教育など様々な分野で協力してきた。特にメトロ3号線事業は中南米で過去最大規模の円借款事業であり、昨年2月にはコルティソ大統領をはじめ政府関係者の出席のもとで着工式典が開催され、現在、整備が進んでいる。同事業がパナマ国民の生活の質の向上と持続的な発展のために貢献できることを願っている。また、一昨年のパンデミック以降、日本は、「誰の健康も取り残さない」という理念のもと、ユニバーサル・ヘルス・カレッジの達成に向けて国際協力を進めるという文脈で、パナマの保健システムの強化を目的に医療機材の供与をはじめ、新興感染症の検査能力向上に係る技術協力を実施している。これらの協力が一日も早いパンデミックからの脱却に貢献できることを期待している。

昨年7月には、茂木前外務大臣がパナマを訪問し、コルティソ大統領に表敬し、モイネス外務大臣との外相会談を行うなど、パナマ側より大変暖かく歓迎いただいた。同訪問では、両国の経済関係促進のために、両国政府とビジネス関係者が参加する経済対話を実施することで一致するとともに、パナマが本年官民ミッションを日本に派遣することが発表された。これを契機に本年の日本とパナマの関係強化が進展することを期待している。

昨年8月及び9月は、一年延期された東京オリンピック・パラリンピックが開催され、パナマからは10名のオリンピック選手と3名のパラリンピック選手が出場した。パナマを含む世界中のスポーツ選手たちの頑張りは、コロナ禍という苦しい年月を過ごしている世界に勇気と希望を与え、東京オリンピック・パラリンピックの成功は、我々が共通の苦難を乗り越えるための第一歩になったと思う。

造船の町として知られる日本の今治市は、1977年にパナマ市との姉妹都市連携を調印し、今年は連携締結から45周年を迎える。これを契機に、ぜひパナマの皆様にも今治市のことを知ってもらいたい。

私は昨年末にこのように長年に亘り、様々な分野で我が国と友好関係を培ってきたパナマに日本国大使として着任したが、このことを喜ばしく、誇りに思っている。今までこの友好関係を築かれた方への敬意と、感謝の念を抱きつつ、両国の関係が多層的にさらに増進していくよう、注力していきたい。